



未来へつなぐ

Vol.

185



文／本間 吾里砂



内観イメージ(センターBF)

二〇二五年秋から リニューアル工事に着手

一九八九年、昭和から平成に変わったこの年、パセオは札幌駅高架下の商業施設として誕生しました。二〇〇三年にJRタワーが登場し、二〇一〇年の二〇周年に合わせた大規模なリニューアル工事を経て、翌二〇二二年には九八店舗を構える札幌駅のシンボルへ。以来、市民だけでなく、国内外から観光で訪れるお客さままでにぎわい、多くの人びとに親しまれてきました。

二〇二三年九月、札幌駅周辺における北海道新幹線の延伸工事に伴い、三十三年間にわたる営業を終了。一日も早い再開が待ち望まれる中、JR北海道はパセオ跡地で開発を進める商業施設を二〇二八年冬ごろにオープンすることを発表しました。

「食」の店舗も充実 新たな札幌駅の顔に

JR北海道は、パセオに代わる商業施設について北海道新幹線の開業時期に関わらず、できるだけ早い時期のオープンに向けて検討を進めてきました。

その結果、リニューアル工事は二〇二五年秋ごろに着手。デザインは、札幌の大地と北



ゾーニングイメージ

の息吹を感じさせるような楽しくて心地よいイメージとし、旧パセオと同じく二階と地下二階のフロアに分かれたつくりとします。何より力を入れてるのが、JRタワーで不足している「食」(飲食・食物販)の分野で、これまで以上に強化を図る計画です。そのほか、駅の立地を生かしたゾーニング、新業態の導入など、より魅力的な商業施設の実現を目指しています。

売り場面積、ショップ数とも旧パセオと同等の規模となる予定で、二〇二五年秋ごろにテナント募集説明会を開催。約二〇〇店舗を募集することから、札幌近辺に進出していない店舗が入ることも期待されています。なお、駅構内に展開する「エキナカ商業施設」は、二〇二七年度末の全面開業に向け、現在設計業務が進んでいます。